

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172700334		
法人名	特定非営利活動法人 陽だまり		
事業所名	グループホーム 陽だまり		
所在地	岐阜県高山市下林町966番地1		
自己評価作成日	平成22年11月5日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172700334&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172700334&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年11月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の方との会話を大切にしながら、人生の先輩として尊厳のある介護を目指しています。  
 又、毎日行っている朝の掃除や体操、天気の良い日には散歩などをご利用者全員で行えるようにし、生き生きとした生活ができるよう援助しています。  
 食事は全員揃って自分の箸を使い自分で摂っています。旬の食材を全員で下ごしらえする事で季節を感じ、作る喜びと共に食べる喜びを大切に援助しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の人々と共に、利用者の生きる力を支えながら、「穏やかに、ゆっくり、ゆっくり」としたケアを提供しようと、管理者・職員が知恵とアイデアを活しながら、質の高い介護を目指して前向きに取り組んでいる。職員に精神障害者を採用し、ヘルパー2級の資格をとりながら、働く職場の提供と自立支援を兼ねて、人材育成に取り組んでいる。職員は、笑顔と人生の先輩からのメッセージを受け取り、互いに相手を思いやる心、支え合う関係を大切にしながら、明るく笑い声の絶えない暮らしを支援している。今年の24時間テレビには、利用者の日常生活が映像に取り上げられて、思い出となっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症がありながらも家庭的な環境のもと利用者同士が安心と尊厳のある生活が送れるよう支援することを目的に「おだやかに、ゆっくり、ゆっくり」という理念にしている。職員は地域密着型サービスに沿ったケアを常に意識し取り組んでいる。	住み慣れた地域の中で、利用者が安心して日常生活が送れるように、「おだやかに、ゆっくり」を理念に掲げている。管理者・職員は、会議の度に理念を確認・共有し、おだやかに、ゆっくり寄り添うケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園で園児が使用する雑巾や広告で作る卓上ゴミ箱作りを日常の生活に取り入れ、出来上がった物を保育園へ届けに行き交流している。また、毎週水曜日の午前中はボランティアの会(ベルマークの収集整理集計)へ数名参加し社会貢献のお手伝いをしている。	職員と利用者が一緒に、近隣の道路を毎朝掃除している。地元の高齢者がホームを訪れたり、利用者が地域に広報誌を配布している。ボランティア活動、町内会や長寿会にも参加し、交流がある。利用者が作った雑巾や簡易ゴミ箱等を保育園に届けるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの生活空間に、近所で暮らす認知症のお年寄りを日中預かり、その方の家族の不安や負担軽減に繋がるよう関わっている。毎年豊田看護大学の学生に老年看護実習の場として提供し認知症ケアの実践経験を学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回行う中で、毎回市の担当課へは開催の呼びかけをし、できるだけ出席してもらっている。平成19年度以降は、自己評価、外部評価での結果等を運営推進会議の議題にあげ、内容の報告等を行っている。	会議は、2ヶ月に1回開催し、利用者・家族の代表者・地域包括支援センター・市職員・法人役員・民生委員等が出席している。自己評価や外部評価を議題にして、内容や課題を討議し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	項目4にもあるように、陽だまり運営推進会議の開催時には、必ず案内し、できるだけ出席してもらっている。担当者が出席できない時でも担当課内の他の職員が出席する等、配慮を得ている。	市担当者には、運営推進会議に常時出席してもらっている。担当者からは、その都度コメントをもらったり、ホームからは、運営状況を報告し、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当初から玄関等の施錠は一切しておらず、どの職員もそれに合った見守りをしている。天気の良い日には散歩や外出を積極的に取り入れ、利用者の外に出たい気持ちを支援している。	身体拘束をしないケアを常に心がけている。リスクについても家族と話し合い、納得の上、閉塞感・抑圧感のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がお互いを意識し合い虐待がおきない雰囲気作りに努めている。また、運営推進会議や職員ミーティングの場で虐待についての話し合いをしている。		

岐阜県 グループホーム陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が制度を理解できるように社協等が主催する研修会が開かれる時は、参加を呼びかけている。現在は家族がまったく利用者の利用はないが、管理者はいつでも関係機関と情報提供し合いながら手続きを円滑に進められるよう制度を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にホームを知ってもらうために必ず見学していただき概要等を説明している。入所を希望される場合は、重要事項説明書等で詳しく説明し、分理解を得たうえで契約している。利用料等改定時には事前に家族へ周知し全員の承諾書ももらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者やご家族に参加してもらった時は意見や要望等聞いたり、目安箱の設置も知らせている。また、家族や利用者から要望等があった時は、ミーティングで話し合いサービスに反映させるよう心がけている。	運営推進会議に出席した、利用者・家族から意見や要望等を聞く機会を設けている。また、家族の訪問時や、目安箱でも意見の把握に努めている。しかし、ホームでの生活を感謝する言葉はあるが、意見や要望等は少ない。	利用者・家族等の意見・要望等を引きだす努力をあらゆる場面で継続されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も職員と同じ勤務体制をとっており、常にホームで起こっている状況を把握できる状態である。また、職員からの意見も常に聞ける状態である。	管理者は職員と同じ勤務体制で、毎日のミーティングで、職員の意見を聞いている。業務改善やサービス向上のための意見・要望等について話し合い、その結果を、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も職員と同じ勤務体制であるから、職員の勤務状況を常に把握している。職員には人材育成のために外部からの資格取得に向けた研修案内等を回覧し職員自ら向上心を持って働けるよう研修の機会を与えている。また、参加の場合は受験料や交通費等も援助する場合がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講できるように心がけている。また、参加したそれらの研修報告は職員ミーティングで行うとともに資料を他の職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県下には岐阜県グループホーム協議会があり、その傘下には飛騨支部会があり、月1回程度の間隔で事業者間の会合とケアマネ等の職員の会合が開かれる。その場において交流や連携、勉強会や質の向上に向けた取り組みがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面談で、これまでの本人の生活歴や本人の心配する事等の思いをよく聞き、不安の強い方にはしばらく通所で利用してもらう等、その人に合ったやり方で入所出来るように促していく方法をとっており、徐々に慣れるように働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面談で、家族の苦労や考えをよく聞き、家族の求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか家族に話をしているし、必要な時は話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族の思いや状況等をよく確認し、ここでのサービスが本人や家族の求めているサービスに合うのか見極めて対応している。当所では対応できないと思われる場合は、他の事業所へ紹介や斡旋している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく支援する側、支援される側という意識をもち、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告、相談するようにし、家族が介護をゆだねつきりにせず、常に關心をもってもらえるよう働きかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の知人や親戚、ご近所の方等が気軽に本人に会いに来てもらえるよう対応している。また、家族には、盆や正月、祭り、墓参り等出かける機会を促している。 また、ボランティアに来て頂ける方が増えている。	出来る限り、馴染みの場へ出かけて行くことをホームの方針としている。市のフェスティバルや四季のごとの外出、馴染みの美容院・墓参りなど、家族やボランティアの協力を得ながら、今までのつながりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、職員が利用者に話しをしかけたり、活動等を通じて利用者同士の間関係が円滑になるように働きかけている。また、利用者同士の関係等について情報を共有し、すべての職員が心身の状態や気分、感情の日々の変化を注意して見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設等に移られた方や入院された方へ、仲の良かった利用者が職員と一緒に会いに行ったりする事がある。職員はサマリ等移った方の支援状況を移動先へ手渡すとともに情報伝達し環境や暮らし方の継続性等に配慮してもらえるよう働きかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情からその真意を推し測り、それとなく確認するようにしている。また、利用者様の声ノートを作りスタッフ全員で検討している。	職員は、日々のケアの中で話しかけ、思いや意向を把握している。利用者の思いを「声ノート」にまとめ、職員全員で共有し、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使いアセスメントを行い把握に努めている。また、家族にもセンター方式の家族版に記入してもらい生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後に職員がその方と関わる中で、その方の性格や他の利用者と一緒にいる活動を通じ本人のしたい事、したくない事、出来る事、出来ない事を除々に理解し、その人を総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は、利用者本人が自分らしく暮らせるよう本人や家族の希望も把握し、また、その方の課題となる事柄等を職員ミーティングの場で情報収集しながら計画の作成に当たっている。	職員全員で、ミーティングやモニタリングを行い、利用者がその人らしくホームで暮らせるように、本人・家族の希望を反映した介護計画を作成している。また、3ヶ月毎の定期見直しと、状態の変化に応じて、随時計画を作り直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの個別の介護経過記録により、日々の暮らしの様子や本人の言葉等を記録し、いつでも全ての職員が確認できるようにしている。また、日々の記録に基づき介護計画の見直しや評価をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援を柔軟に行っている。また、家族の訪問も随時受け入れている。		

岐阜県 グループホーム陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の民生委員や社会福祉協議会委員、地区福祉委員の皆さんに出席してもらいその方々の力を借りた取組みが出来るよう普段から連携をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も、利用者本人の従来からのかかりつけ医となつてみえる医師に引き続きかかれるようにしている。希望により陽だまりの提携医療機関に変更することも可能としている。	かかりつけ医は、ホームに入っても変わることはなく、定期受診は、家族に同行を依頼している。急変時は、協力病院への送迎と付き添いを支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。看護職員がいない時間帯は、介護職員が常に介護経過記録に記し、記録をもとに看護師等と連絡をとり合つて適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人への支援方法に関する情報を、医療機関に提供するとともに随時職員も見舞うようにしている。また、家族とも回復状況等の情報交換をしながら、必要な支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族と重度化に対応した意思確認を意思確認書により取り交し、陽だまりが対応しうる最大のケアについて説明を行っている。	終末期や重度化した場合、ホームで対応できる限度について説明し、意思確認書を家族と交わしている。重度化に備え、入居と同時に特別養護老人ホーム等の入居を申し込み、転居することを方針にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体状態の急変や事故発生時にも慌てず適切な行動がとれるようマニュアルを整備し周知徹底を図り、急な発生に備えている。また、消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を行った事がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練や初期消火の訓練を実施している。また、その際は地域の方にも呼びかけ一緒に参加してもらっている。また、職員ミーティングや研修で勉強し、意識付けを行っている。	年に1回以上は、消防署の協力で、地域の人と共に避難訓練や初期消火訓練を行っている。近隣の住民とは、災害時に協力が得られる体制を築いている。職員には、夜間を想定した対応も、ミーティングや研修で確認し、意識付けを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、人前であからさまに介護する等、利用者のプライバシーを損ねるような行為はしないようにしている。 スタッフ間で常に意識し合っており、ミーティングや内部研修で話し合いを行って、振り返りの機会を設けている。	利用者一人ひとりの尊厳を大切にして、さりげなく支援をしている。人前で誇りを損ねないように、言葉づかいに配慮している。利用者の気持ちを受け入れ、むやみに否定しないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様ノートを活用しながら、日中の活動でもやりたい事を聞き参加してもらう等、自分で決めたり納得しながら暮せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の基本的な一日の流れはあるが、1人ひとりの体調等に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して日々の生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え等身だしなみは、基本的に本人の意志で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。 又、女性にはマニキュアや口紅を塗ったりして女性ならではの楽しみを持って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の好きな利用者と一緒に調理や盛付け等を行い、食事の時間は職員も同じテーブルで一緒に食べている。また、片付けも出来る方には食後のテーブル拭きや食器拭き等職員と一緒にやってもらっている。	利用者の出来る事を尊重して、自発的に手伝いをしてもらっている。毎日のメニューも、利用者の希望を取り入れている。調理した職員が料理の説明をしながら、全員一緒に、料理の感想などを語り合い、楽しい雰囲気ですべてしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日毎食毎記録し、利用者の摂取状況を把握している。食べる量についても個々の適量を把握し配膳に気をつけている。又、夜間には自室へお茶をペットボトル等を持って行き、いつでも水分補給出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は、食後は歯磨きやうがい等各自してもらうように声かけをするとともに、洗面所での見守りや介助をしている。夕食後は、特に口腔内の清潔保持に努めている。		



岐阜県 グループホーム陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間やその人の習慣を把握してトイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。また、トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツやパット類も本人に合わせて検討している。	利用者の表情や行動(態度)から排泄リズムや習慣を把握し、トイレに誘導している。早目の対応でトイレでの排泄を促し、見守りの中で自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から、野菜等の食物繊維が取れる食事作りに心がけるとともに、毎日便秘予防体操等を行ったり、散歩等で身体を動かし自然な排便を促している。また、体質等で便秘がちな方には、医師の指示のもと処方された下剤等を使用してもらうが、その方の適量を把握し快適な排便になるよう気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日の内、午前、午後の時間に分け、一人ひとりがゆったりと入っていただけるよう入浴時間を長くとっている。また、その人にとって一番よい時間に入ってもらっている。	ほとんどの利用者は、なんらかの介助が必要であるが、入浴時間をゆったり取り、個浴で一人ひとりに合わせた支援を行っている。入浴までに時間がかかる利用者もいるが、急かさず、表情を見ながら、ゆっくりと支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。また、1人ひとりの体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬管理を徹底するため、各々の薬入れ(カゴ)を用意し、薬の袋には日付や名前、朝・昼・夕等と記し整理して全職員が把握できるようにしている。服薬時は職員が薬を手渡し服薬を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、洗濯干し等得意な分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。正月玄關に貼る新年の挨拶や昼食のお品書きを頼み活躍の場の場面作りをしている。その他作品作りをして、校下の文化祭へ出展することが出来た。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各種イベントに積極的に参加している。又、全員で近くの公園やお店等へ出かけたり、日頃自分達で作っている雑巾等を地元の保育園へ届けたり、毎週ベルマークのボランティアの会に参加する利用者同行し出かける支援をしたりしている。車を2台増車したことにより外出の機会を増やすことが出来た。	車を2台に増やした事で、各種イベントや店・近くの公園等に行きやすくなり、利用者の希望に合わせた外出が多くできるようになっている。青葉の家(精神障がい者就労支援施設)との交流や桜の花見等、全員参加を基本にして、日常的に外出支援を心がけている。	



岐阜県 グループホーム陽だまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中には、手元にお金を持っていないと不安な方もみえ、その方には家族と相談して小額の現金を持ってもらう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書を書いて送りたい方には、職員が書く事や送る事を支援している。また、電話をかけたい時は、相手先と話ができるよう支援している。家族や本人の希望で自室に携帯電話を置いてみえる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆がいる居間のすぐ隣に台所があり、ご飯の炊ける匂いや料理の作る音がすぐ伝わる位置である。また、トイレも居間に近く水洗トイレなので清潔に使ってもらえる様式である。築2年の建物なので新しい環境で生活してもらっている。	廊下には、地域の作品展に出品した写経・書の掛け軸や全員で作った四季の貼り絵、ボランティア制作の壁掛け・視覚障がい者制作の連鶴等、落ち着いた雰囲気飾りつけがしてある。居間にはテーブルが置かれ、一段高い畳の間に堀コタツが設置されており、利用者はそこで、ゆったりと過ごしたり、職員と共に楽しそうに作業を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物が小規模なので玄関ホールや階段のおどり場に椅子やソファを置く等の空間作りは出来ないが、各々の居室が比較的居間に近く、1人になりたい時は、自室へ行きやすい環境である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みの物を持ち込んで使用してもらう事が本人が居心地よく安心して過ごせるという事を家族に説明し、馴染みの物を持ち込んでもらっている。自分で作った作品や散歩で摘んだ花を自室に飾っている。スタッフと共に自室を掃除することで自分の部屋だと認識できている。	一人ひとりの思いが詰まった写真や作品があり、その人の個性が感じられる居室づくりを工夫している。散歩の途中で摘んだ花がさりげなく活かしてあったり、使い慣れた整理筆筒も置かれて、利用者が安心して過ごせる居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーに対応し、いたる所に手すりが取り付けられ、自立と安全を確保した環境となっている。また、一人ひとりの分かる力を見極め、必要な所に目印をつける等利用者が見て分かるような環境にしている。		